

高松市立栗林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

よく学び よく遊び よく働く 子どもを育てる

「確かな学力の定着」「健やかな心身の育成」「心の豊かさの実践」

【目標】

- 学校評価における児童アンケートの運動に関する肯定的な意見の割合を、85%以上にする。
- 体を動かすことの楽しさを味わい、習慣として運動する子どもを育成する。
- 昼休みに運動遊び等を実施する児童の割合を増加させ、新体力テストのソフトボール投げの学校平均をすべての学年において、一昨年度に比べ+1点以上にする。

【取組み】

遊ぶ場所の確保

体育館や屋上や2階、3階テラスを開放して運動を行えるようにしている。安全面の配慮として、教員が必ずつく、走らない、テラスや屋上での運動を縄跳び、長縄のみとしている。また、運動場等での遊ぶ場所が明確になるように、各クラスに「栗っ子運動場の使い方」を配布し、教室に掲示するとともに、栗林スタダードにも一緒に綴じ、職員にも周知する。さらに、なわとびをしっぽに見立てたしっぽ取りを推奨したり、運動場にジグザグタッチのスペースを作ることで、敏捷性を高める。

体力向上プロジェクト

2, 3学期に、「体力作り月間」を設ける。2学期は11月にボール投げ、3学期は2月になわとびを行う。密を避けるために曜日ごとに、ペア学年で実施する。なわとびでは、なわとびカードを配布することで、目標をもってなわとびに取り組めるようにする。また、ボール投げでは、ボールに対する恐怖心を減らすために、柔らかいゴムボールを採用する。

体育備品・クラス配当品の充実

できるだけ多くの児童が遊べる場所を考え、体育館や運動場だけではなく、屋上や中庭に鉄棒やジャンピングボードを置くなどし、体を動かせる環境を作っている。また、昼休みには、ボール倉庫を開放することで、運動場で児童が様々な運動に取り組めるようにした。また、柔らかいボール2つや長縄、マーカーコーンなどをクラスに配布し、いろいろな外遊びができるようにしていることで、運動場に出て遊ぶ児童の割合を増加させる。

【現状】

運動場では児童が楽しそうに体を動かしている様子が見られる。しかしながら1000人以上の規模に対して運動場の面積は狭く、グラウンドでは全員が一度に遊べるスペースはない。

体育の授業においては、学級数の関係で体育館等は4年生以下は2クラスで使用することとなっている。運動場は2クラスか3クラス同時に使用する。そのため同じ単元を行うとしたら、体育備品・消耗品が2倍必要となってくる。

【本校の課題】

- 一昨年度の体力テストで、全ての学年において、男女ともにソフトボール投げの記録が県の平均を下回っている。
- 多くの児童が外遊びや体育館での遊びを行っているが、運動習慣がついていない児童も多い。
→体育の授業で、体を動かす楽しさ、「できた」という自分の技能の伸びを味わわせる必要がある。
また日常的に運動に取り組む習慣を付ける必要がある。